

した。

まず、有限会社安達商事の安達  
享司代表取締役が、高齢化社会へ  
の対応として、商店に買い物に  
かかれられない高齢者の元へ「ひま  
わり号」で食品などを販売する移  
動販売事業、それに合わせ行っ  
ている高齢者の見守り・確認事業を  
紹介。今後、さらに進行していく  
高齢化や過疎化などに合わせた移  
動販売・買い物支援の在り方が重  
要になってくると報告しました。

次に、社会福祉法人祥和会の浅  
井誠司セルプひの所長が、『施設  
の立場から見た障がい者福祉』と  
題し、報告を行いました。施設の  
立場から、障がいがある人が福祉  
サービスを利用するために必要な  
計画相談が、県内のサービス受給  
者は4〜5割程度しか終了してい  
ないといった課題をあげたほか、  
今後も地域と連携していくことを  
話しました。

最後に、黒坂のおしゃべりカ  
フェの西古尚史さんが、ふれあい  
と交流の場づくりとして始めた同  
カフェの活動を紹介。今後も高  
齢者が住みやすい環境づくりを進め  
ていくことなどを報告しました。

シンポジウムでは、お互いの立  
場や暮らしを理解し、大切にし、  
支え合い、共に暮らすための連携  
した地域づくりが大切であると確  
認されました。



3人の報告者がそれぞれの活動を通じた報告を行いました

### ▼事業所の取り組み

## 自分の成長と人権尊重の意識をはぐくむ

鳥取西部農協協同組合 日野支所長 安達 淳子

「じぶん

この

やっかいなもの」

みつを

これは、私のお気に入りの  
相田みつをさんの言葉の一つ  
です。数多くのメッセージが  
あり、さまざまな場面におい  
て心の支えとなり励ましとな  
り慰めとなります。

人権・同和教育も現在は多  
岐にわたり、自分が自分らし  
く、相手が相手らしく日々の  
生活が送れるようにと、それ  
ぞれの環境の中で学習をされ  
ているのでしょうか。その手  
段は勉強会に参加することも  
あれば、実際の体験によつて  
思い知らされることもありま  
す。1年365日中、毎日  
を考えることはできません。12  
か月のうち毎月勉強会が開催  
されないかもしれません。1  
日24時間も瞬く間に過ぎ去っ  
ていく中、人権・同和教育に  
かかわる話を聴く機会があれ  
ば、積極的に参加し、そのひ

とときだけでも聴いてみるよ  
うにしています。何事もまず  
やってみることがとても大切  
だと思っています。

鳥取西部農協も今年の8月  
1日で合併20周年を迎えまし  
た。組合員さんをはじめ地域  
の利用者の方に支えられ、こ  
の日は迎えられることはとて  
もありがたく感謝しています。

組織の中でも毎年、職員全  
員（正職員・嘱託・臨時・パ  
ート・ジェイエイサービス・J  
Aショップ含む）が人権同和  
問題研修を受けます。今年度  
も7月22日から9日間、合計  
18会場に分かれて研修会が開  
かれました。テーマも毎年変  
わり、一昨年は「障がいにつ  
いて」、昨年は「パワーハラス  
メント」、今年は「交通事故に  
おける責任と人権」でした。  
忙しい業務の合間の短時間で  
の研修ですが、「へえ、そうなの？」と感心させられたり、「  
怖いなあ」と問題の原点にふ  
と立ちかえったり、自分自身  
への刺激になっています。同



人権同和研修会の様子

じ話を聞いても十人十色受け  
取り方は職員それぞれだと思  
いますが、良い糧になつてい  
ると考えます。やっかいな自  
分を少しでも成長させるべく、  
自分が自分らしくありつつ相  
手の立場を尊重していけるよ  
う一生勉強だと思えます。  
JAも地域の職場の一つと  
して皆さまとともに成長して  
いきたく、今後ともご指導い  
ただきますようお願いいたし  
ます。

▼各学校の取り組み

【根雨小学校】

●PTA同和教育推進部主催による交流会

6月22日、下榎集会所と下榎隣保館で、PTA同和教育推進部主催による交流会が開かれました。当日は、約70人もたくさん参加があり、DVD視聴やうどん打ち、会食を行いました。時間をかけ汗びっしょりになって打ったうどんはこしがあつて大変おいしかったです。

人権教育への取り組みや会員同士のきずながさらに深まった一日となりました。



みんなで楽しくうどん打ち

●松本孟さんをお招きしての研修会

7月29日、夏休みの職員研修として、拉致問題についての研修を行いました。同研修は鳥取県人権局と協力して行ったも

ので、米子市から松本孟さんにお越しいただき、映画を視聴した後、話をさせていただきました。松本さんは、拉致を絶対に許さないで欲しいと強く訴えられました。

今回は職員研修でしたが、高学年を中心に児童へも広げられるようにしていきたいと考えています。



拉致問題について語る松本さん

●人権教育参観日とPTA研修会（人権教育講演会）

10月21日、人権教育参観日を行いました。各学年で人権問題や生き方に関する教材を使いながら道徳や学級活動の授業を公開しました。それぞれの児童の考えを伝え合うことや、劇にしながら気持ちを考えてどうすればいいのかなどを話し合いました。学校で学習したことをさらに家庭でも話し合っていたら嬉しいと思います。



劇で子どもたちに分かりやすく伝える

後半は人権教育講演会

として、部落解放同盟鳥取県連合会西部地区協議会女性部長の坂田かおりさんが「小さな手のぬくもり」と題し話されました。坂田さんは歯切れのいい口調で、「本音で話し合える仲間がいることの大切さを改めて感じました。人と人ともっと身近につながっていくために、子どもたちから、相手の目を見て話したり、自分のことを言うことができたりするように家庭でも取り組んでみましょう」と熱心に話されました。



とても有意義な時間を過しました

【黒坂小学校】

人権感覚を高め、人権問題を解決するための土台となる力を育てるために、次のような取り組みをしています。

●仲間づくり

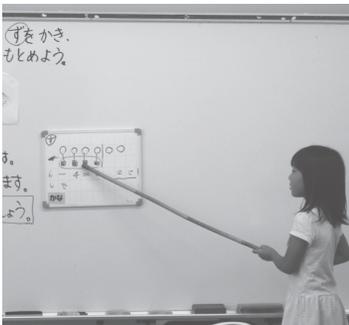
学級経営や縦割り班活動での達成感のある活動・楽しい活動を通し、認め合い、励まし合う仲間づくりを目指しています。



運動会での応援合戦の様子

●授業づくり

言語活動の充実を図るとともに、学ぶ意欲の向上を図り、活用する力を高める授業づくり、人権教育の視点に立った育てたい資質・能力を明確にした授業づくりを目指しています。



自分の考えを分かりやすく説明

●基本的な生活習慣の改善  
保護者とも協力しながら、基本的な生活習慣の見直しをし、学力向上やコミュニケーション能力の向上を目指しています。

【日野中学校】

●PTA人権教育講演会

7月2日、日野中学校図書館で、平成26年度PTA人権教育講演会が開かれました。鳥取県ケータイ・インターネット教育推進員でもある南部町教育委員会総務・学校教育課長福田範史さんが「ネット社会の光と影」スマートフォンの上手につきあうために」と題して話されました。

インターネットで、基本的な生活習慣が乱れたり、誹謗中傷や個人情報流出することによって人権侵害がなされていく現状や、スマートフォンが有史以来最も便利で危険なツールであり、あらゆる立場で自浄作用が求められることなどを話されました。しかし、今後の社会でスマートフォンが必要なことは確かであり、大人の使い方こそが子どもの手本になること、家庭において愛情を持って厳しく優しく見守ることが大切であることなどを話されました。